

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こみち
教育の小径No.72
10月号
2014 October

今月のことば

覆水盆に返らず

一度行ったことは取り返し
がつかないということです。
「覆水」とは容器が
ひっくり返ってこぼれた水
のこと。類似表現に「後の
祭り」があります。



国士館大学教授
北 俊夫先生

「学校図書館」利用の活性化を

- 学校図書館は、本を読む場としてだけでなく、調べ学習の場としても機能させることによって、学校図書館の利用を一層活性化させることができます。
- 図書館の仕組みやルール・マナーなど、利用の仕方を指導することによって、図書館をより効果的に利用できるようになります。

今月の記念日

リサイクルの日(10月20日)

「ひとまわり(10)とふたまわり(20)」の語呂合わせです。平成2年(1990年)に、日本リサイクルネットワーク会議が制定しました。6月9日「リサイクルの日」です。

学校図書館はもう一つの教室

「読書の秋」です。多くの学校では、国語科の授業として週に1時間程度の「図書の時間」を位置づけ、学校図書館を利用しています。また、地域のボランティアの協力を得ながら、休み時間に読み聞かせの場としても利用されています。

学校図書館は国語科の時間だけでなく、社会科や理科、家庭科、総合的な学習など、さまざまな教科の時間にも調べ学習などで利用されています。教科の学習成果をさらに高めることができるからです。また図書に親しみ、本好きの子どもを育てるとともに、生涯にわたって地域の公共図書館を利用し、豊かな人生を送ろうとする態度や能力の基礎を養う意味もあります。

学校図書館は、子どもたちにとって「もう一つの教室」です。それは図書という教材が豊富にあるからです。また、司書教諭や図書ボランティアなど指導者が配置されている場合には、子どもたちの相談にのったり助言したりしてくれるからです。

多くの学校では、学校図書館の位置が校舎の隅のほうだったり、最上階にあたります。安全上の問題などから、入り口に鍵が掛かっていて、いつでも気軽に入れるようになっていないこともあります。最近では、子どもたちが各教室から図書館に行きやすいよ

うに、校舎の中央部に位置している学校も増えてきました。

子どもたちが、学校図書館を「もう一つの教室」として利用することができるようにするためには、その運営や構成などのあり方が問われています。

学校図書館に多様な機能を

学校図書館は、分類・整理された多量の図書がある「本のある部屋」「図書の館(やかた)」です。そのため、子どもたちには図書館に対して、本を読んだり借りたりするところというイメージが形成されています。

ところが、学校図書館には「メディアセンター」としての機能を併せもたせることの大切さも指摘されてきています。学校図書館に「読む部屋」としてだけでなく、「調べる部屋」「発信する部屋」としての機能をもたせる取り組みです。これは「本の館」から「学習情報センター」「学習支援センター」への転換を図るものです。

ある小学校では、学校図書館の機能を「本を読む部屋」と「調べ学習をする部屋」に分離独立させています。調べ学習のスペースには、社会科や理科など各学年の学習の進行に合わせて参考になる図書や資料を提供しています。コンピュータやプリンター、コピー機などの情報機器も備えられています。また、大きなテーブルが配置されており、グループで作業することも

できるようになっています。

このように、学校図書館に図書だけでなく、DVDなどの映像教材、情報機器といった学習環境を整備することによって、子どもたちは授業の他に、放課後や夏休みにも利用することができます。司書教諭などの指導を受けながら、学校図書館を主体的に活用することが期待できます。

学校図書館の利用指導

「学習センター」としての機能をもたせ、整備された学校図書館を子どもたちが有効に活用するためには、例えば利用の仕方について、次のような事項を指導します。主に学級活動の時間での指導が考えられますが、教科等の時間にも折にふれて指導します。

- ・図書館の利用の仕方(図書館のルールやマナー、本の借り方、読書衛生など)
- ・情報の探し方(配架のきまり、本の探し方、パソコンの活用・検索、事典などの目次や索引の見方など)
- ・情報の使い方(さまざまな図書の利用法、写真やDVDの活用法など)
- ・情報のまとめ方(情報の整理・保管の方法、発表・発信の仕方など)

学校図書館を日常的に利用し、学習に取り組むことによって培われる知識や技能、能力は、子どもたちにとって「一生モノ」になります。学校図書館の利用を活性化しましょう。

言語の果たす役割

私たち日本人のほとんどは、「日本語」という母語を身につけています。母語とは、幼児期から自然な状態で習得してきた言語のことです。

私たちは言語を習得することによって、ものごとを深く理解したり、その意味などを論理的に考えたりすることができます。言語は私たちが知的な活動を行うときに無くてはならない重要な道具（ツール）です。

語彙や言語力を身につけると、感性が豊かになり、情緒を安定させることができます。識字学級に通っていた人から、「『夕日』という文字を教わった日、その夕刻に見た太陽がそれまでと違って、一段と綺麗に見えた」という話を聞いたことがあります。私ごとですが、言いたいことが十分に伝えられないときなど、ついイライラします。言語には心のありようを左右する役割もあります。

このように、言語には知的な活動を促し、心を豊かにする役割があり、人格の形成に大きく貢献しています。

また、言語という道具を使うことによって、他者とかかわり合うことができます。相手の言い分を理解することができます。自分の言い分を相手に伝えることができます。言語はコミュニケーションを図るために無くてはなりません。言語は、他者との関係づくりに貢献するという役割があります。

自己と多くの他者によって、社会や集団が構成されています。言語によってよりよい社会を考え、みんなでつくっていくことができます。言語は社会の形成にも貢献していると言えます。

このように言語にはさまざまな重要な役割があることから、いま学校では各教科等の学習指導で、言語活動を充実させる取り組みを進めています。

教育時事
教育の動向

教育委員会制度の改革

先の国会で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地方教育行政法）が一部改正されました。平成27年4月から施行されます。主な改正事項に教育委員会制度があります。

各自治体には、教育委員会が設置されています。現行の教育委員長は廃止され、教育委員会の代表は教育長になりました。教育長は首長が任命し、これまで通り常勤です。「総合教育会議」の設置が義務づけられました。首長が主宰します。会議は首長と教育委員から構成され、教育行政の基本方針などが決められます。選挙によって選

ばれた首長の権限が、これまで以上に強化される仕組みになっています。

これまでの教育委員会の代表は、非常勤の教育委員長でした。教育長は教育委員のなかから、教育委員会によって任命され、教育委員会の権限に関する事務をつかさどっていました。事象対応に対する責任の所在が不明確だという指摘が、これまででも出されてきました。教育委員会制度を見直すきっかけになったのは、大津市で起こったいじめによる自殺問題に対して、教育委員会が適切に対応できなかったことによるものです。

なお、教科書の採択や教職員の人事などは、教育行政の政治的中立性を保つために、これまでどおり教育委員会の専権事項とされています。

コラム **北 俊夫の「3.11」体験談(11)**

学んだこと②—問題解決能力

「3.11」では、さまざまな問題場面に遭遇しました。食べ物を買おうとコンビニに行きましたが、すでに売り切れていて何も手に入れることができませんでした。問題解決ができなかった場面です。浜松町駅で、乗車する地下鉄線を選択し直したのは、よりよい問題解決でした。羽田空港第2ビルで体験した乗客の誘導の仕方から、優れた問題解決の方法を知りました。

問題場面では、さまざまな形で問題解決能力が求められることを学びました。具体的には、正確な情報を収集し、何が問題になっているのかを把握する能力（問題発見力）、経験などを生かして問題解決の方法を決定する能力（解決方法の企画力）、そしてできるだけ自力で問題解決する能力（自力解決力）など

です。これらは問題解決のプロセスで求められる能力であり、多くの場合「判断力」と一体に発揮されます。

いま学校では、基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの能力を育むことを目指して授業改善が行われています。こうした学習を通して身につけた問題解決能力は、単に学習レベルで必要とされるだけではありません。日常生活のさまざまな場面で非常事態などに遭遇したとき、必要となる重要な能力であることを改めて実感しました。

津波などの被害を受けた被災地においても新しい街づくりに向けて、多くの人たちの英知を結集した問題解決が進行しつつあります。困難な課題を解決し、すべての被災地が1日も早く復興することを願ってやみません。

INFORMATION

大好評 新学年へのパスポート **5年へGO!**



教科で選べるしあげ教材 ※写真は4年の例

編集後記

本紙60号の頃、絵本を「読んで! 読んで!」と態度でせがんできたわが子も、この1年間でずいぶん動画好きになりました。本や玩具を片手に、電車などのDVDやYouTubeをしきりに「みるの! みるの!」と言葉でせがみます。本と動画とプラレール(玩具)はセットで確認しないと気がすまないようです。(T記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2014年10月1日